

■**新島八重** **男女、教育者。新島襄の妻。会津陥落に際し、官軍に銃で応戦活躍、京都初の洗とキリスト教結婚式。**
にいじまやえ
阿部正弘首座1845＝ 若松城下で、山本権八の三女に生まれる。母はさく。_兄に**山本覚馬(のち京都府府会議長)**がいる。
父は入婿で、母方祖父は会津藩砲術師範ながら、家は貧しく、

ペリー来航・1853＝ 8歳：
開国開港・・1854＝ **9歳**：

桜田門外変・1860＝15歳：

8月18日政変 1863＝**18歳**：

明治維新・・1868＝23歳：_男装し、7連発のスベンサー銃を持って会津戦争に参加。板垣退助の率いる政府軍が若松城正面に進撃したが、城内からの銃火にはばまれ進入できなかった。この銃撃戦で一番活躍したのは八重の7連発銃と高木盛之輔の元込銃だったという。若松城落城の夜、八重は三の丸の雑物庫の白壁に唇で歌を刻みつけた。"あすの夜はいづくの誰かながむらむ馴れしみ空に残す月影"。
廃藩置県・・1871＝26歳：_兄**覚馬**を頼って、京都へ出る。
学問のすすめ1872＝**27歳**：京都の新英学校および女紅場(京都府立第一高等女学校の前身)の副舎長兼教導試補に任じられる。
明治6年政変 1873＝28歳：
初の民間工場1875＝30歳：_**新島襄と婚約し、女紅場を辞職、**
三つの内乱・1876＝31歳：_*京都で行われた**最初の洗礼を受け、最初のキリスト教風結婚式を挙げる。旧柳原邸に女子塾を開設して同志社女子部の基礎としたのを始め、**
大久保暗殺・1878＝33歳：_***同志社女学校が正式開校、母さくを舎監とし、以後、病弱な夫を助け、キリスト教の伝道と子女の教育に半生を捧げる。**

明治14年政変1881＝**36歳**：

岩倉具視没・1883＝38歳：夫妻とともに、故郷を訪れるも、洋装で人力車に同車する様子が、地元で悪評。

帝国憲法発布1889＝44歳：
帝国議会始・1890＝**45歳**：_***夫襄が死去。襄の門人たちと性格的にそりが合わず、日本赤十字社の正社員となり、**

日清戦争始・1894＝49歳：日清戦争が起こると、篤志看護婦として、傷病兵の看護に従事し、
日清戦争終・1895＝50歳：_**その功により、勲七等宝冠章が授与された。皇室以外の女性として初めての受勲である。**
襄の臨終に立ち会った徳富蘇峰は、それまでの八重に対する扱いを詫び、以後、大事に交際、

Bushidou・・1899＝**54歳**：

日露戦争始・1904＝59歳：日露戦争が始まると、再び篤志看護婦として従軍、
日露戦争終・1905＝60歳：その功により勲六等宝冠章授与となる。

韓国反日暴動1907＝62歳：新島旧邸を同志社に寄付、
アヲチ 創刊・ 1908＝**63歳**：
その後は、茶の湯・生花などを教えて余生を送り、

明治天皇没・1912＝67歳：

ロシア革命・1917＝**72歳**：

原敬首相暗殺1921＝76歳：

晩年の八重は蘇峰を頼りとして、何度となく相談をしたという。

円本時代始・1926＝**81歳**：
五一五事件・1932＝87歳：_**没した。**
蘇峰の協力によって、同志社葬が行われ、京都若王子の襄の墓の傍らに葬られた。